

1月号

12月25日

… 雨でも休まず：第148回 …

## 「若柳・嵐山の森」から

### ◎ 新春の森を寿ぐ会； 1月8日（第二土曜日）

\* 土地のしきたりに従って作業はしない。森神様を称え寿ぐ会を開く。神酒は準備するが、自分のお神酒と正月残りのお節を持っておいで。参加費無し。

### ◎ 定例活動：1月16日（第三曜日）里山交流

\* 森の神様と鈴木様ご一家に挨拶後、午前中は、神事の軽作業。

\* 午後1時から恒例の新年会。今年は、鹿を食わせる予定、ドブロクも。

会費：男性4000円、女性3500円、中高生2000円、子供タダ。

### ■ 必ず申込：ボランティア保険加入と食材の準備に必要。

\* T&F 03-3411-1636、メールもOK。

### ■ 初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合。

JR高尾発：8時42分、9時02分に乗られたし。

### ○ 服 装：滑らない足下、汚れて良い格好、作業手袋は革製が安全。

### ○ 持 参：保険証写し、作業はきついが、活動を楽しむゆとりと心構え。

## 緑のダム北相模の挑戦

“国が解決できない問題にNPO如きが”と笑われもするが、NPOだからこそ出来る事がある。今は、流域材建築物や木質バイオエネルギー利用に手掛けを得ている。

NPO日本一県を目指す神奈川県には、600以上のNPO法人がある。県の森林政策と協働するために「神奈川ボランタリー基金21」に3年目の連続挑戦し、成功した。4月から県と協働事業が始まる。全て森林仲間のご協力あればこそ。感謝。

安い輸入材の流入で国産材が売れなくなり森林の荒廃が急速に進んでいる。当会は、これを阻止するために立ち上がった。素人に何が出来るかと笑うなれ。“雨でも休まず”7年間活動を継続して来た結果、「都会の普通の人々による国際認証の森つくり」。来年4月、予備審査を受ける。面白いじゃないか。

1年前に現状を整理して課題を書いた。その中で緑のダムの森つくりは、多様で、総合的な森つくりに進んでいる事が特徴だといった。きっかけは自然発生的で、最初はただ好きでやっていたとしてもこの特徴は全国に様々ある森つくりNPOであっても特異で先駆的な活動であることは知っておいた方がいいと思う。このことは仲間内でももっと強調さてもいいのではないか、とのごろよく思う。

NPOとして、あるいは森林ボランティアとして森林整備をしているところはたくさんある。でも、整理した森林をどう活かしていくかを追及しているところはまだ少ない。ましてや、「地域の活性化なくして地域の森林は守れない」という視点で活動の多様性を模索しているところはもっと少ない。

以前、次のような諸点を「緑のダム北相模の多様性」として整理した。

#### 1)持続可能な森林経営。

つまり、良い材がとれるようこれまで植林されているものをよりよいものにしていく。間伐、枝打ちだ。「協力協約」としてやっている。

#### 2)木材をもっと活用するシステム

木材を作る人たち、加工する人たち、使う人たちをつないで、ネットワークを準備する。とりわけ、都市住民の意見が反映されるシステムとして。

#### 3)森林を活かす

人々が様々な参加ができる事をめざしての森づくりであり、豊かな動植物をはぐくむ森づくり。緑のダム学校がやっている森林体験教育や森林資源（木材・ツル・山菜等々）の活用などあれこれたくさん。

#### 4)甲州古道の活動にあるように、地域資源を活かす活動で、地域の人たと協力して地域の活性化と森づくりをつなげて行く。

#### 5)流域単位で上流下流をつなぐネットワークをつくる。

「試行錯誤でいいから、できることから始めよう」ということから「自分たちの活動を整理して、イメージを膨らませていこう」というのがこれまでの確認であった。

これを可能にしたのは「FSC認証森林にする」という目標があったからだ。この認証森林の基準

を参考にして取り組みを整理して行く中で、輪郭が見えてきたのだ。

もう一つ。誰でも、どんな人でも受け入れていくという体質があったから。いわば閉鎖的なものではなく、よりひろがっていこうとするスタイル。これは、石村さんをはじめとして、自己完結する閉じた関係で無く、開かれた活動にしようとする人が多く集まっているのが、結果として今の緑のダム北相模の多様性をつくりだしたといえる。

再度、強調しておくが、緑のダム北相模の持つ多様性は、これまで森づくりを担ってきた森林組合や林業家とはちょっと違った森づくりの方向を提示できる可能性を秘めていると確信している。これは緑のダム北相模の自慢していいところだと思っている。

さて、1年が経つのは早い。少しずつ形になりつなるものがあったり、まだまだ試行錯誤が続きそうなものがあったり。今、提案したいことはふたつ。

その1)ここでのやるべきことが形になりつつあるなかで、それぞれのプロジェクトがもっと「実践的な力を持つこと」だ。つまり、イメージがより具体的なものとして機能するように。

個々のプロジェクトに言及できないが、事例的にいうと、森林整備班にあってはちゃんと枝打ちや間伐が指導出来る人たちが、ひとりふたりでなく集団として存在すること。緑のダム学校にあっては、参加者が一過性の参加に終わらないで「歩留まり3割」が達成すること、甲州古道PJにあっては、イベントのひとつでも開催してひろくアピールする活動を等々。活動イメージだけでなく戦力を整えて実体をつくっていくことが条件だ。1年でこれだけの戦力にしたいという目標があればいいね。

その2)組織の求心力をつけて行くこと。

これは「外への広がりがある」と評価すべき点のこととを言うのだが、議論を通した合意をつくっていくことに慣れていかねばならない。

これまで「かどや会議」的な飲みながらのアレコレ話でよしとしてきたが、もうそれだけでは進まない気がする。例えば森林整備班は誰々がその中心でどの側面を担当し、どのような計画で以後の活動を

進めていくのかを検討しうる組織的な場がいる。いわば、「スタッフ会議」のようなものを設定することだ。とかく「組織を作る」という堅い話になるし、会議より飲み会という人が多いが、ある程度の基本になる内部システムを作りおかないと人は育たない。組織を作るということは物事の処理をわかりやすくすることだけに止どまらず、その本質は「人が育っていく環境をつくる」と言うことだから。

緑のダム北相模も段々「こうなったらいいね」と希望が語れる団体になれたらと思ってきた。

NPOは希望を語ってこそ、であるし、また、希望が新しいエネルギーを生み出すのがNPOだから。

そして今、輪郭が整いつつあるなかで、さらに実体を作ると森づくりの新しい地平が見えてくる。

### ● 定例活動報告：12月4日（第一土曜）：森林整備に集中

午後から雨の天気予報でも、何時ものとおり30名の剛の者が集まった。本日の作業の目玉は、吉田孝男さん（NPO環境資源保全研究会）が持ち込んだ「材搬出用シューター」。これは何かというとほら、火災などで使う「避難救助袋」のあれ。それを材の搬出に使えないかというアイデアによるもの。吉田さんは、物事を否定する事を知らない好奇心の塊である当会に目を付けた。“よっしゃ、分かった”と富沢仲間が周到な準備の上、当日参加の皆さんに檄を飛ばして取り組んだ。以下、吉田孝男さんによる報告。

#### 本邦初公開・間伐材の滑り台

富沢さん他十数名が取り組んだ布製材搬出滑り台（ウッド・シャーティー）は、急傾斜に約10度の勾配で40m横引きしました。

最初は、ウッドシューターの空中設営がうまくいかず、4m間伐材の滑りおろしに手間がかかりましたが、勾配を12度にあげた後、間伐材に引きロープをつけ、集材場所に4m間伐材30本を安全に集めました。日本は、急峻林地が多く、間伐材の回収は困難です。このウッドシューターは、林道を敷設するところなく材を回収することが可能と見て実用化を目指します。次回の定例活動日19日には、D地区35度急斜面にウッドシューター90mを空中設営し、材50本を滑降させ林道車道まで搬出します。

報告／吉田孝男（NPO環境資源保全研究会）



これと平行して森林整備班15名が枝打ちに励み、契約の3月迄には完了するぞ。それにしても手を入れた森は明るく美しく優しい。3時半に活動を終了して清水仲間が「ムササビ亭」を開店して丁度いい頃、5時頃、雨がポツリと来た。夜半、豪雨豪風の大嵐となった。

### ● 定例活動報告：12月19日（第三日曜日）里山交流

本年最後の活動日、雨模様とか言う天気予報外れの薄曇り。年末と言うのに続々と人々が森に集まる。93名参加の内、「緑のダム体験学校」参加の「望星高校19名、フード連合12名」は、3班に分かれて森を学んだ。

## 間伐材“100m”空中滑り台実験・成功

報告：吉田



“間伐材空中滑り台；ウッドシャーク／WS”による間伐材回収実験が、富沢リーダーのもとに行われ、山腹土場に集材された間伐材36本が下界に無事、回収されました。

最初、重い間伐材でのWSの山腹接触による滑走ストップが

あり、その対策後、距離100m、高低差50mでの間伐材の滑走が始まりました。ところがどっこい、何回かの滑走で立木のWS懸架が緩んだせいか、スピードがついた間伐材がはずみ始め、ついには数十kgの間伐材がジャンプし、WSから脱輪し始めました。トラブル発生の度に、手をつく急傾斜地での吊直し（吊り方でトラブル回避可能）が大変でした。しかし、本来、切り捨てられる間伐材が下界に搬出された時、心地よい疲れとなりました。

日本には、林地切捨て間伐材が年々、膨大に発生しています。その切り捨て間伐材を下界に搬出し材として、更にはバイオマスエネルギー源として活用される道が開けたと確信しています。

ボランティア実験のため当方、周到に準備ができず緑のダムのメンバーの方々には、多大な労力をお掛けしましたこと、お詫びします。

この提案を受け入れて実際に進めると技術上の問題、安全管理の問題、地権者との関係、はたまた森林に対する認識の相違、際限無く課題が噴出する。だが、森林はそのような事を解決しようとしてこなかった事が最大の問題で当会は、逃げる訳には行かないだろう。吉田さんからの報告の中からも読み取る事が出来るのだが、いずれにしても安全管理だけは、万全を期して無理せず、ボチボチ…、が良いと思う。余り神経質に考えると何も出来ない。こんな事を考えるようになった事、そのものが力を付けたとも言えるのだから皆で知恵を出し合いながら少しでも先に進める事が求められる。

\* 協力協約D地区



\*全体運営会 於：駅前桂北公民館：4時から本年最後の全体運営会。

### 1、国際FSC認証の申請書提出：後記参照

- ・森林整備活動を始めて8年目に入る。5年前、素人の我々が森林を誤ってはならないとFSCのガイドラインに沿って進めようと決めた。取得が目的ではないが取り組んだ以上は、認証を取ろうというのは自然の流れであった。全体運営会として申請を決定し12月22日、認証機関に提出した。
- ・4月17日(定期活動日)予備審査、6月：本審査、問題なければ8月：認証。“都会の普通の人々による国際認証の森つくり”。面白いじゃないか。

### 2、神奈川県「ボランタリー基金／協働事業」の取り組み：後記詳細

#### 3、「小原本陣の森」再開

現在の「若柳・嵐山の森」の協力協約の森林整備が3月で終了する事で、この森に最低必要な整備が終了する。また、月毎に増加する大勢の都会の人々が隔週ごとにこの静かな山里に集まるのは、この地域の人々にご迷惑を掛ける。森林のオーバーユースと言う問題も考えておかねばならない。

月1回を2年前に一旦、取組んだ「小原本陣の森：約100ha」に移す。来期4月から活動開始予定

### ○ その他の報告1：県行政と「甲州古道踏査」：11月27日(第4回)

津久井地区行政センターの小林所長を頭に4名、県企画部、相模湖町企画財政課など行政幹部6名の方々と各地の古道仲間など、抜ける快晴の同日、計21名がJR高尾駅に集まった。昨年3月に加藤仲間が立ち上げ、斎藤仲間が引き継いだ甲州古道の復活事業は“藪の中に頭を突っ込みながら”全行程踏査の結果、このような形になった。これから先、どうなるかは、目的をもって継続すれば自然と成る。行政の皆さんとは午後3時30分の藤野駅解散までの道々、様々な意見・情報交換をしながら楽しく歩いた。

### ○ その他の報告2：川崎：幸まちつくり研究会：12月6日



これまで8年、「森をつくり／FSC活動」を学んできた。去年から「森をいかす／FCC事業」に取り組み始め「大工棟梁／匠の会や神奈川建具組合」などと接触を始めている。即ち、国産材が売れないから、わが国の森林が荒れている。だからこれを何とかしようと言う活動だ。

現在の森林の荒廃の原因は、外材だけが原因じゃない。徳川幕府：400年の林業システムの矛盾が積み重なって林業行政を逼塞させている。

解決の道を“環境と経済が矛盾しない方法を探す事”と定義して「木を買ってくれる人：森に経済を還流する事」が必要。そこで、東京の消費者団体を通じて神奈川の協働してくれる団体を探していた。結果、神奈川ネット系の「川崎；幸まちつくり研究会」と接触が始まった。この一年、相互理解を深めて来期は協働する事になって6日、川崎幸区の同会の事務所で話し合った。この活動は、川崎・横浜在住の林・杉原仲間を中心に活動を進める。

### ○ その他の報告3：アサザ基金視察：12月11日

視察は、学校ビオトープ(石跡)、休耕田ビオトープ、アサザ現地(霞ヶ浦)、川の植生復元(石崎・山王川)、湧水源地保全と谷戸保全(石崎市・谷津田)、鬼ハス栽培田、これらの市民活動を支える人々、川口さん等を訪問、意見交換。

飯島さんとは会えなかったが共通点・類似点・相違点は全て活動の現場風景が教えてくれた。特に、アサザ基金の活動が大きくなったのは、活動を事業化した事。即ち、環境運動を経済活動に結び付けた事であった。これは、当会も目指すところ。取り分けN E Cの支援が大きかったようだ。



霞ヶ浦湖畔で活動の説明を受けた。

### ○ その他の報告4 カナガオボランタリーキャンペーン：12月19日 報告 石村

神奈川県が行う民間との協働事業に連続3年目の挑戦。横浜西口の県民サポートセンターで行われた。神奈川には約600のN P O団体がありその内、37団体がエントリーして書類審査で13団体が残り、映像プレゼンに参加をした。斎藤さんと杉原さんが私の下手な原稿を散々苦労して見事なものに仕上げて斎藤さんがプレゼン説明をした。プレゼン後の当会への質問は2点。

質問1、貴会の膨大で多岐にわたる森林問題をどのような考え方で進めるのですか？

回答、森林には公益性・多様性が求められています。多様な関わりの中から持続可能な森林再生の途を探る事が必要です。当会は、その方針に従って進めており、私たちの活動こそ解決への最善の方法と信じています。

質問2、貴会は森林整備と生態系保全に力点をおいているが生態系に関して言えば広葉樹の方が優れているのではないかですか。

回答、全ての事には夫々、役割というものがあります。私たちの手入れして陽が差し込む針葉樹林は美しく、生態系も豊かです。針葉樹が駄目で広葉樹が良と言う事にはなりません。人間と木を含む生きものが、どのように調和・共生していくか、放置している事が問題だと思います。

・13団体のプレゼン終了後の堀田審査委員長の審査会講評と当会への評価は次の通り。

総評：今回は県各部署からの協働参加多く、エントリー各団体の提案内容のレベルの高さに驚かされている。一方、県担当者の受け身の姿勢に落胆させられる。「確かに受け止めて協働していきたい」位の気概を持って欲しい。また、毎回、発表する側として落選を知らせる事がつらいが今回は、全団体の協働参加をお願いでいることが嬉しい

当会：「N P O緑のダム」は昨年は、県との協働体制が出来ていない事で落選したが本年は、それが解決されている。この取り組みは正に、県が進めている政策に合致しており県と良きパートナーになられん事を希望する。

今後：県担当部署と細部を練り直して再度、審査会の事業内容の査定を受けて4月から協働事業が始まる。

この間、森仲間のご協力を感謝すると共により一層、内容のある活動になるためご協力をお願いする。

## ○ その他の報告5：国際FSC申請書提出：12月22日

「素人に何ができる」とも言っていたが、「雨でも休まず、ボチボチと…」とか言いながら続けて来た。10日、「FSC推進班」の篠田・林・杉原の森仲間と連れ立って横浜ランドマークタワー38Fにある「認証機関SGS極東支部」に打ち合わせのために訪問した。19日の全体運営会の了承を得て12月22日に申請書提出。予備審査は、来春4月17日(第三曜日:定期活動日)とし本審査6月、問題なければ認証は8月の予定。通過すれば9月に報告会を行う。認証森林は世界に約500あるが「都会の普通の人々によるFSC国際認証の森つくり」は希有とのこと。これも余りムキにならずボチボチ…、が成功への途。

## ● 北鎌倉便り、第1回／団塊サミット：12月11日

報告 丸茂喬

当会と提携関係にある「NPO法人北鎌倉湧水ネットワーク」主催の“団塊世代よ、帰りなん、いざ故郷へ！”が紅葉映える北鎌倉建長寺で開催された。高井宗務総長のリードで200人以上の参加者が本堂で読経後、容姿も声も美しい「リラ音楽歌手：青木有子さん」の体を吹き抜けるような歌声にしばし酔った。東京女学館大の西山教授の「691万団塊の行方」の講演内容は、団塊世代は常に消費社会をリードし、ドラマを作ってきたが自分の故郷に帰るのはわずか1.4%、ほとんどが第二のふるさとを探している…であった。

5人のパネラーによる第二部は、「自分の居場所」と題して朝田くに子氏をコーディネーターとして始まった。私は「北相模・森つくり」の広報担当として団塊世代の社会貢献の話をした。都市に生活している私たちにこそ森が必要であり、その活動の中に「自分の居場所」としてふるさとがあると結んだ。その後の交流会には「北相模の森」の話題で盛り上がった。

兼松さんオリジナルの「檜チップ風呂の素、間伐材サンタ人形」などアッと言う間に売れてしまい、改めてその人気に驚いた。このような機会を作ってくれた主催者の野口氏とそのスタッフに感謝申しあげたい。

### 針葉樹か広葉樹か

第二次世界大戦の戦争資源の一つとして山は丸坊主になった。戦後復興の昭和30年代から拡大造林策で建築材に適している針葉樹植林が奨励された。経済発展に伴う外貨過剰対策として、木材が自由貿易品となり安いものに流れる経済のため、ホルムアルテヒドなどの有害物質を使った合板なども入ってきた。そのため、針葉樹林に手が入らなくなってしまった。

ちょっとかじりの自然保護論者が、「あの黒木(鐘淵)が諸悪の原因だ」、「針葉樹を抜いて広葉樹にかえろ」と言う。学校の授業でも「森は怖いから行ってはなりません、木を切る悪い人」と教えてる教師もいる。



… 雨量・成分と森林植性調査 …

武藏工大環境情報学部：小堀研究室

- ・中国の経済発展は目覚ましく外材がそちらに流れ初めている。当然、輸入材は高くなるだろう。
- ・CO<sub>2</sub>の固定化効果は、広葉樹より針葉樹の方が20%ばかり大きいと言われている。
- 「針葉樹か広葉樹か」の論議を“木を見て森を語る”視点で見てはいけない。

## 小原宿から与瀬宿へ

2町半の小原宿の西橋の屋号榎屋を過ぎると、甲州道中は中野諸久保沢を源にして流れ下り、深い谷を刻む小手沢川を渡りました。この沢には長さ6間、幅2間の小手沢橋が官営で架設されていました。現在、小手沢川は埋め立てられ平野広場になっています。

この小手沢橋を渡った甲州道中は、平野旅館より右に上がって、地名「大道端」より与瀬平野をとおり、「中丸三叉路」に出ます。この地点から凡そ100mさがり右に急折し階段をおり、えんどう坂を下ります。更に茶の木横町より現桂北小学校前を舟形に曲がると与瀬宿です。

与瀬宿は、東西6町50間（約744m）往時は宿内88軒、本陣と6軒の旅籠がありました。脇本陣はなく、宿中程に、小仏宿までの駄賃と人に足賃を掲げた高さ7尺5寸、長さ2間5尺、幅1間の高札所がありました。囲い人足は、10人10疋。また、宿上町中程の屋号元問屋が、往時の「問屋場」でした。宿合高は、390石8升6合、宿内人別男281人、女285人合計566人でした。

与瀬宿の本陣前の与瀬神社参道手前に「明示天皇与神社御小休止址」の高さ3mの石碑が建っています。与瀬本陣の往時の建物は現存しませんが、広大な屋敷と築山に名残をとどめています。往時の建物は、建坪111坪、門構え、玄関のあった立派な本陣です。

さらに、与瀬宿は甲州道中時代は与瀬村として、小原宿と一村をなしていました。小原宿が小仏峠を越してきた止宿者を与瀬宿を通り越して吉野宿へ送る下り片繼宿場に対して、与瀬宿は吉野からきた止宿者を小原宿を通り越して小仏へ送る片繼宿場でした。甲州道中はこうした宿駅機能の宿場が、随所にあったようです。次回は、与瀬宿の地名の由来について記録します。(文責 中里)

後記 一体、どうなっているのだろうと思う速さでことが展開していく。法人にして3年目の意義ある1年間であった。そして、新しい課題が次から次にと生まれて来る。生まれてくるが自然と解決の道も開ける。このことは、取りも直さず森仲間のお陰である。そして、新たな人材が集まって来てくれる。事務局がボーとしているから見るに見かねて寄ってたかって助けてくれる。

来期 1) 都会の普通の人々による国際FSC認証の森つくり。

2) 神奈川県と取り組む森林協働事業。

3) 森つくりフォーラムが環境省から受託した「森林NPOガイドラインつくり」を手伝う。

○ 1月 8日(第一土曜日) 新春を寿ぐ会  
作業はしない。自分のお神酒と正月お節の残り物を持っておいで。

○ 1月16日(第三曜日) 定例：里山交流  
午前中：神事の軽作業  
午 後：新春を寿ぐ新年会

○ 協 働 団 体



\* HP : <http://www008.upp.sp-net.jp/kitasagami>

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと  
そして、沢山のご意見、参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会

NPO法人緑のダム北相模／森林部会

事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9

T&F 03-3411-1636 : 石村黄仁

発行者 ／事務局 石村黄仁

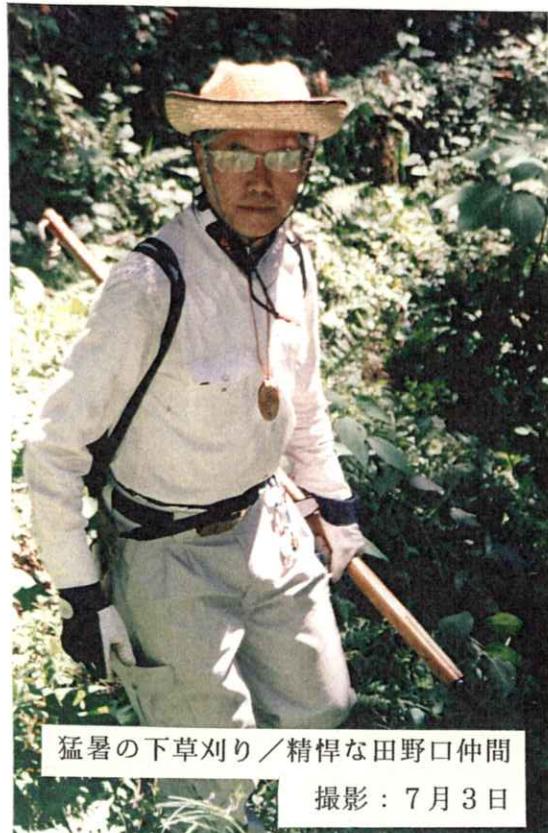
NPO緑のダム北相模の森林保全活動は左記の団体との協働事業として実施しています。

… 今年も意義ある 1 年 …

- ・ 5月20日／当会を核とする「森林と都市生活者をつなぐ活動・協議会/準備会」ができた。森林は、専門家だけの時代ではなくなった。都市の普通の人々の参加が必要だ。
  - ・ 12月19日／神奈川県と協働事業を始めることが決まった。
  - ・ 12月22日／都会の普通の人々による国際認証による森つくりは8年目に入った。



凛として森を守る 撮影：1月6日



摄影：7月3日



森林と生活者をつなぐ活動・協議会/準備会：5月20日



外国からの視察者も来る 6月6日

# 森林破壊という負の遺産を 子孫に残してはならない。



特定非営利活動法人  
**緑のダム北相模**



。。。すべての人々との協働。。。.



... 12月も末だというのに93人の参加があった ...  
森仲間の皆さん、今年のご協力を感謝。来年も、急がず、無理せず、  
楽しく、ボチボチ...。宜しくお願いします。良いお年を...

## 1月度／参加申込書

... 保険申請のため参加者は2、に○記しを付けて下さい ...

1、新春を寿ぐ会：1月8日（第二土曜日）参加費無料。

作業はしない。自分のお神酒と正月残りのお節を持っておいで。

2、定例：1月16日：里山交流と新年会

午前中は、森を称える神事の軽作業

午後は、何時ものとおり「旅荘五本松」で新年会

参加費 男4000円、女3500円、中高生2000円、子供タダ。

申込み 必ず必要、1月13日迄。

宛先 TEL&FAX 03-3411-1636

お名前 \_\_\_\_\_ e-mail \_\_\_\_\_

ご住所 〒\_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

\* 会員でない方は是非、会員になって運営に参加下さい。

\* ML未登録の方は、登録して情報交換に参加下さい。

\* 沢山の方々から年会費が振り込まれています。ありがとうございます。非会員も入会下さい。